

# ブルーギル

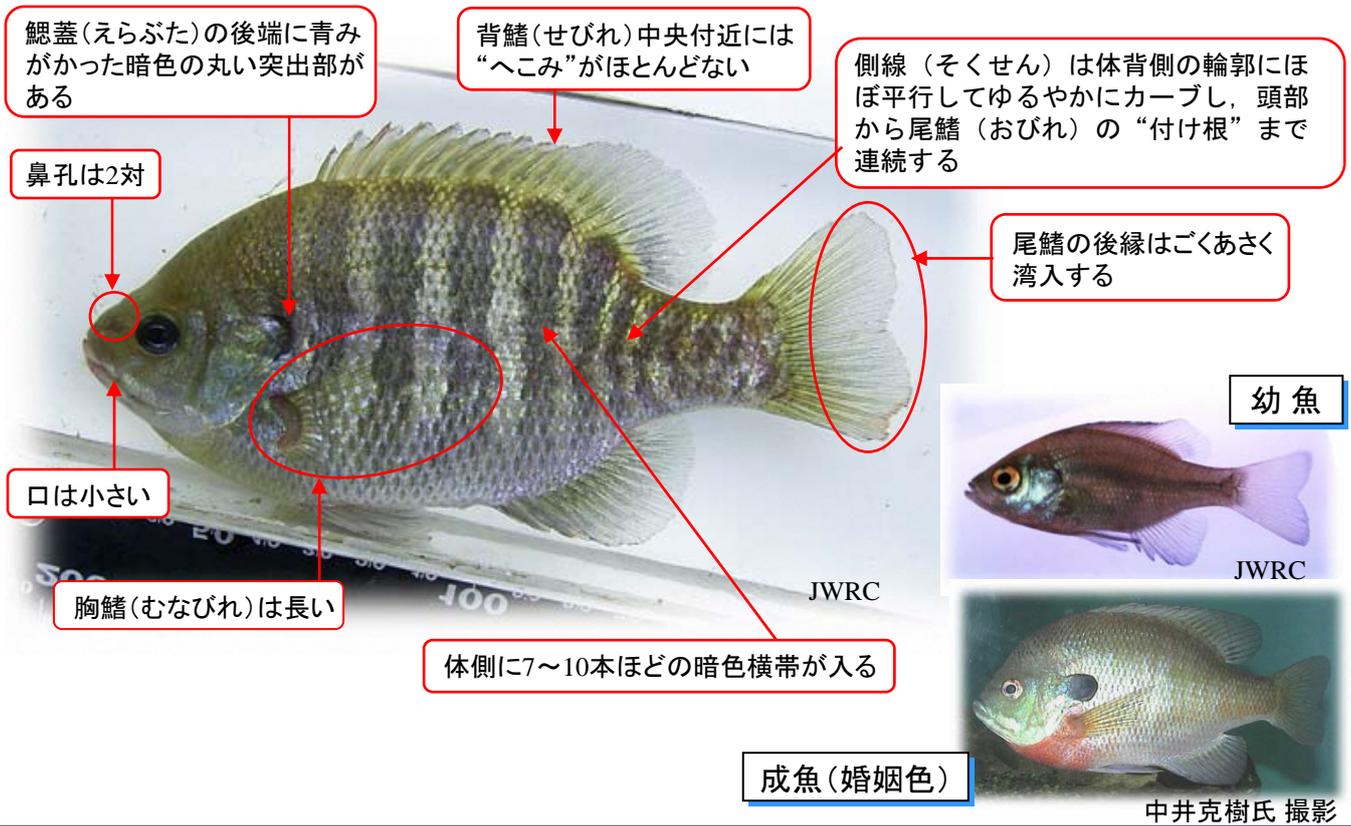
分類: スズキ目サンフィッシュ科

学名: *Lepomis macrochirus* Rafinesque, 1819  
英名: Bluegill  
和名: ブルーギル  
別名・流通名: ギル, ブルーギルサンフィッシュ  
原産地と分布: 原産地は北アメリカ(メキシコ北東部～アメリカ合衆国東部)。現在では、移植により、日本を含む世界各地に生息する。

未判定外来生物: サンフィッシュ科全種(オオクチバス・コクチバス・ブルーギルを除く)

種類名証明書添付生物: ナンダス科の1属(*Nandus*), プリストレピス科の1属(*Pristolepis*), ポリケントルス科の2属(*Afronanuds*, *Polycentropsis*)

**形態的特徴:** 体高が高い。口は小さく、顎の後端は眼の前縁下付近に達する程度。鼻孔は2対。側線(そくせん)は体背側の輪郭にほぼ平行してゆるやかにカーブし、頭部から尾鰭(おびれ)の“付け根”まで連続する。背鰭(せびれ)中央付近には“へこみ”がほとんどない。胸鰭(むなびれ)は長い。尾鰭の後縁はごくあさく湾入する。鱗は細かく、側線鱗数は40～44。体は淡灰褐色で、体側に7～10本ほどの暗色横帯がはいる。鰓蓋(えらぶた)の後端に青みがかった暗色の丸い突出部がある。最大で全長41cmのものも報告されているが、ふつうは25cm程度まで。



**特記事項:** 日本各地の河川や湖沼、ため池などに広く定着し、遊漁の対象にされているが、外来生物法により生きたままの個体の運搬、保管、飼養が原則的に禁止されているため、捕獲時には適正に取り扱わなくてはならない。内水面漁業や水生生物調査、自然観察会などで捕獲されることもあるが、その際の取り扱いについても同様である。在来生態系保全や漁業資源保護のために、各地で防除事業が実施されており、自治体によっては条例で再放流を禁じている。今後とも、これ以上の分布拡大の防止に努めるとともに、すでに定着している水域では必要に応じて被害の低減等の対策を講じることが望まれる。なお、防除の方針については、「オオクチバス等に係る防除の指針」を参照されたい。